

競 技 注 意 事 項

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項および申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場(使用方法について下記参照)を原則とする。砲丸投の練習は、係員の指示に従って補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う。

補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
- ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～10レーンのみとする。
- ・多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9・10レーンは男子110mHとする。
※2日目(7月3日)の共通100mH決勝の招集開始時間以降は7～10レーンを利用してのスタート練習ができる。ただし、周囲の安全に配慮して練習を行うこと。
- ・リレーの練習は用具倉庫前第2コーナー付近を利用して行うこと。※第4コーナー付近でのリレー練習は行ってはならない。

雨天練習場の使用について

- ①雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ②雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。以外は、補助競技場で行うこと。
- ⑤ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ハードルは使用できない。

棒高跳について

競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。

3 ナンバーカードについて

- ・ナンバーカードは指定の大きさのまま数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技(走高跳・棒高跳・走幅跳)に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- ・トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横や後方につけること。競技終了後必ず係員に返却すること。
- ・3000mは別ナンバーカードを招集所にて配布する。

4 選手招集について

- ① 選手招集場所は第2コーナー付近とする。
- ② 選手招集開始時刻、招集完了時刻は次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技 予選(四種競技を含む)	競技開始30分前	競技開始20分前
トラック競技 決勝	競技開始25分前	競技開始15分前
フィールド競技 (四種競技を含む)	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド競技 (棒高跳)	競技開始70分前	競技開始60分前

※棒高跳は現地招集を行う。

ただし次の種目の予選については招集完了時刻を段階的に行うので注意すること。

100m・200m・100mH		800m	
1～6組	競技開始20分前	1～4組	競技開始20分前
7～9組	競技開始5分前	5～6組	競技開始5分前
1500m		3000m	
1～2組	競技開始20分前	1組	競技開始20分前
3組	競技開始5分前	2組	競技開始5分前

- ③ 招集完了時刻に遅れた選手は、失格となる場合があるので時間を厳守すること。
- ④ 2種目を同時に出場する選手は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出る。2種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先する。
- ⑤ リレー種目に出場するチームは、その種目の1組目の招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙を競技者係まで提出する。用紙は、招集所にて準備する。
- ⑥ やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出る。

5 競技用具について

- ① 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし棒高跳び用のポールは検定において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検定は最終点呼時に跳躍審判員が実施する。
- ② 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

6 競技について

- ① その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ② トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。
「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ③ スターターの合図は英語とする。(「On your marks」、「Set」)
- ④ 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路(曲走路)を走ること。
- ⑤ トラック競技は全て写真判定で行う。
- ⑥ トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部(電気時計 1/1000)まで読み取り着差の判定をする。ただし、着順優先とし、各組上位者のみとする。
- ⑦ レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑧ リレー競技のマーカーの使用は1カ所とする。使用したマーカーはそのチームで処理する。
- ⑨ 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。

- ⑩ トラック競技の予選はタイムレースとし、上位8名が決勝に進出することができる。ただし、男女1500m、男子3000mについては、予選タイムの上位16名が決勝に進出することができる。なお、同記録の場合は写真を拡大し、写真判定主任により決勝進出者を決定する。
- ⑪ 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑫ 携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできないコーチェリアからのコーチの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。

7 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

		練習							以降
走高跳	男子	140	145	150	155	160	165	170	3cm 刻み
	男混	135	140	143	146	149	152	155	3cm 刻み
	女子	120	125	130	135	140	145	148	3cm 刻み
	女混	115	120	123	126	129	132	135	3cm 刻み
棒高跳		210	230	250	270	290	300	310	10cm 刻み

第1位決定のために行うバーの上げ下げは、

走高跳 2 cm
 棒高跳 5 cm 単位とする。

8 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：1500mおよび棒高跳・投てき競技

第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳

9 表彰について

- ・各種目（個人・リレー）の1～3位の表彰は、決勝終了後行う。
- ・個人種目の4～8位の賞状はロビーに取りに来ること。

10 その他

- ① 本大会において標準記録を突破した者は、第43回全日本中学陸上競技選手権大会に出場できる。
- ② 応急処置を要する場合やその他健康上の問題が生じた場合、メインスタンド下の医務室に連絡すること。
- ③ 記録は競技場メインスタンド下正面玄関付近に掲示する。